

SINAPIS

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol.
101

2024. 10

年間テーマ ～あきらめない 平和への道を とともに～



10月20日(日)は大阪高松カテドラルで INTERNATIONAL DAY の
ミサとイベントが開催されます

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、
愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪高松大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@ostk.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

巻頭言

『見よ、それはきわめてよかった』

クラレチアン宣教会 梅崎隆一

中学生の理科の時間、「紙を半分に切って、更に半分に切っていくと、ある部分で切ることができなくなるところまで行き着く。これを分子と言う。更に分子は原子に分けられる」と教えられました。今では中性子にまで行き着き、それ以上は小さくならないそうです。

紙だけではなくこの世の全ての物質は細かく分けると同じ物質によって造られていることが知られています。机、石、動物、人間も物質的に考えれば同じであると言えます。

しかし、同じ物質によって構成されているからと言って、机を破壊することと、人間を殺すことは同じではありません。科学の限界の一つは価値付けができない事です。そのような現象については道徳や倫理によって判断しなければなりません。

道徳と倫理の目的は、「人が善く生きるとは何か？」を探求することです。より高い価値のある生き方を選び取る時に人間らしく生きることができると言えます。

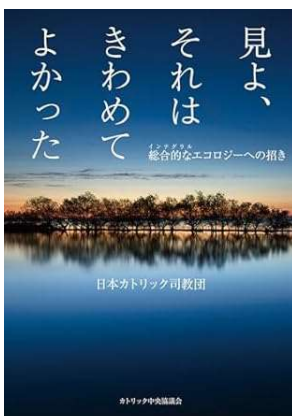
また倫理、道徳がしっかりしていなければ、まともな法を立案することはできません。人の支配ではなく、法の支配による法治国家をより良いものにするためには、より善く生きようとする人間の決断が不可欠です。

そして残念ながら、法に伴う罰則がなければ、国や企業、個人の非倫理的行為を止められないことを、私たちは日々体験しています。それは国連が戦争を止められない原因の一つでもあります。

日本カトリック司教団のメッセージ『見よ、それはきわめてよかった』には共通善、倫理、道徳という言葉が何度も出てきます。「より善く生きる事」を探求することはキリスト者にとって大切な使命であると言えます。

テヤール・ド・シャルダンとは、被造物が同じ物質によって構成されているのだから、人の中に聖霊が住まわれることは、この世界にとって大きな喜びであると言われます。人がキリストと同じ神の子どもになるという救いは、この世界の救いに大いに関係のある出来事です。

生きた神殿の中に聖霊が住むことによって、ミサの第四奉献文を実現し、またそこから流れ出る水は命の果実を実らせ、民の病を癒す薬用の葉をもたらします。



「NICE 1」で指摘された「信仰と生活の遊離」は、今でも私たちの大きな課題であり、環境問題もその中に含まれています。

日本カトリック司教団「見よ、それはきわめてよかった」 総合的なエコロジーへの招きの出版記念 シンポジウムに参加して

関目教会 松尾 由佳

9月14日、サクラファミリアにて、標記のシンポジウムが開催されました。

第1部は、「ラウダート・シ」デスク秘書の瀬本正之神父の解説、第2部は、瀬本神父に加えて前田大司教、大塚司教、松浦司教、酒井司教、信徒で環境保全実践者の池永重彦さんを交えてのパネルディスカッションにより実施されました。

2023年に発表された使徒的勧告『ラウダート・デウム』は、一人ではなかなか読むことも理解することも難しいので一緒にまた通読会を行おうかと教会の仲間と話したその日に、ちょうどこのシンポジウムがありましたので参加させていただきました。

2015年に回勅『ラウダート・シ』が発表されたときに、「回勅やて。重要なメッセージってことやな」、「何か大切なパパ様のメッセージらしいけど難しそうやん」と話し合いながら、私の所属教会の仲間により通読会が始められました。しかしながら、難しい語句に加えて、突然地球から宇宙へ、さらに私の思っていた宇宙よりもさらに大きな世界観に驚き、多くの専門用語とともに私の頭脳ではなかなかよく理解するにいたりませんでした。

また2019年、教皇様が「すべてのいのちを守る」をテーマに来日された時、長崎でのミサにも参加しましたが、「パパ様のミサにあずかった！」だけで終わらせてはいけないよね、とずっと感じておりました。

その後のコロナ禍、自然災害や終らぬ紛争や戦争の前に、私達は無力さや虚しさも考えさせられています。

このシンポジウムで、『見よ、それはきわめてよかった』の内容について瀬本正之神父の解説、司教様方のコメント、そして玉造の池永さんのお掃除の奉仕活動の実践のご紹介を拝聴いたしました。

この本を消化しきれず、不完全燃焼の思いになって「もやもや」している私とフランシスコ教皇の『ラウダート・シ』への橋渡しをしてくれるものと思います。



奉仕活動の実践を紹介し、環境保全の報告をする池永重彦さん（玉造教会信徒）



「本書を通してわたしたち日本の司教団は、大地と貧しい人々の叫びに耳を傾け、それを神の視点で識別し、信仰に基づく霊的な動機に動かされ、具体的な行動によってともに歩むよう呼びかけたいと思います。日本カトリック司教協議会 会長 菊地 功」とあります。

（本書 あいさつ より）

フランシスコ教皇、司教団の勧めを受け神様が創造された「ともに暮らす家を大切に」「すべてのいのちを守る」ために私達がともに歩んでいきますように。

「五島の浜にプラスチックごみが流れ着いた」ことについて映像を観ながら説明をする前田大司教

平和旬間 2024 徳島地区の報告

いまこそ平和を Peace, now!

～苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう Listen & respond to the sufferers

『歌って踊って平和を語ろう！ウクライナ避難民青年からのメッセージ』 山口 文子



徳島地区の平和旬間行事として8月12日（月）13：00～8月13日（火）15：30の2日間、徳島教会においてテーマ『歌って踊って平和を語ろう！ウクライナ避難民青年からのメッセージ』を開催した。

参加者は延べ35名であった。

実は今回の集いには、講演のスピーカーとしてウクライナ避難民マキシムさんご家族をお招きする予定であった。ところが7月末に連絡が入り、ウクライナに一人残る祖母の体調が思わしくなく、彼の母と妹は急遽ウクライナに帰国した。日本に一人残った彼も、学業とアルバイト、心労もあり感染症でダウン。本人はとても残念がったがこの度は、マキシムさんが準備してくれた資料をもとに支援する会の有村氏がマキシムさんの代役を務めてくださることになった。

第1日目は徳島の伝統芸能である阿波踊りを楽しみ「踊る阿呆に観る阿呆♪同じ阿保なら踊らなそんそん♪」とばかりに踊り見物のみならず、にわか連にも参加し交流を深めた。

参加者には、スリランカ内戦を体験したサミット神父様や欧州にあって NATO には加盟せず、中立国を保っているアイルランド人の青年ディーンさんもいて、それぞれの平和への思いを聴くことができた。



歌って踊って平和を語ろう！
皆で歌ってこれから開会



さあこれから踊り見物に出発



にわか連で踊ってヤットサー♪

「ねたきりになら連」や、「あらそわ連」（外国人の方の連）などユニークな連も

第2日目は、10：00～12：00『ウクライナ避難民青年からのメッセージ』の講演会を開催した。

【講演内容】

- ① 『支援する会』の紹介…（発起人・池田雄一神父のこれまでの歩みを紹介）
常に、小さくされた人、貧しい人の側に寄り添いながら「労働する神父」の姿勢を貫いてこられた生き方は、まさに平和旬間のテーマそのままにイエス様の生き様にも重なる。
池田神父は、幼少時、神戸の街が焼夷弾の雨で焼き尽くされた記憶と、ウクライナの街が焼き尽くされる映像がオーバーラップし、ウクライナの子ども達を支援しようと決意された。
できれば顔の見える支援をとの思いもあり、マキシムさんご家族との出会いとなる。
- ② マキシムさん家族の自己紹介…（家族が日本で過ごす初めての連休を YouTube で鑑賞）
- ③ 歴史を通してウクライナを紹介…（様々な映像によって分かり易く説明をいただく）

- ④ なぜ日本へ…2022年2月24日の朝7時頃、オデーサ市外の湖に着弾したミサイルのヒューッという音で目が覚める。一家3人は（祖母は残る事を選択）車で2日以上かけて命がけでモルドバへ逃れる。親切な方に助けられルーマニアへ。その後、彼の母の友人が日本にいた関係で日本へ。
- ⑤ 現在そして未来への希望…支援の会の応援で、彼は天理大学に合格した。アルバイトで学費や生活費を稼ぎ、大学の寮で生活している。母は老人福祉施設で働き、妹は公立高校へ通っている。将来は日本のIT企業に就職し家族を支えたいという夢を持つ一方、先の見えない戦争で、これからどうなるのだろうとの不安もある。



「戦争では平和は築けません。皆さんに少しでもウクライナの現状を知っていただき、考えていただき、行動していただきたいと思います。このような機会を与えてくださったことを感謝します」

マキシムさんのメッセージはこのように締めくくられていた。

午後からは4グループに分かれ『霊による対話の分ち合い』を行い、その後、松浦司教代理の司式による『平和祈願ミサ』を捧げた。

ミサの中で、各グループでの分ち合いを祈りとし、発表した。



松浦信行司教代理司式の『平和祈願ミサ』。説教では、絵本を読んでもうございました。そして、「世界は繋がっている」とメッセージを受け取ることができました。



【霊的対話による分ち合い】

戦争が始まった当初、戦場の悲惨な映像を目の当たりにしてとてもショックを受けましたが、戦争が長期化する中、徐々に戦争に対する意識が希薄化する自分がいました。

そんな中、今回現地の人々の体験を肌身に感じて知ることができ、無関心になってはいけないことに気づかされました。

紛争が起こると弱者に一番被害が及ぶことに、やるせない思いを抱きます。私たちが十字架を担う人々の苦しみに耳を傾け、寄り添うことができますように。

今の自分達の生活が平和であることを当たり前と思わず、感謝し日々を大事にしたいと思います。互いを尊重し長所を見つけ合い、褒めることから始めたいと思います。

私たちは、人間が歴史的に繰り返す争いの現実と、その根本にある競争本能等にも目を向けました。一方で、人間には良心も思いやりもあります。指導者がどのような方向性に導くかで大きく変わります。それは国同士という大きなレベルだけではなく、様々な共同体や家族のようなマイクロな集まりにいたるまで当てはまることです。教会共同体として、平和を求めて発信する使命を有していること、もっと言えば様々な人々が対話するプラットフォームを提供することもできることを確認しました。一人ひとりが平和の道具としていただけるように、主に願い求めます。

【マキシムさんへ】

この度は、平和講演会のために有村さんとともに準備を進めてくださりありがとうございました。私たちは、ロシアとウクライナの戦争が一日も早く終わる事を祈ります。最後になりますが、ぜひ、次の機会に徳島にお越し下さい。心よりお待ちしております。参加者青年より

「平和旬間報告」から見たこと、感じたこと



『平和旬間報告集』編集スタッフ

《戦争の残酷さ・悲惨さを知ろうとする姿勢》

今年の平和旬間のテーマ「いまこそ平和を～苦しむ人びとの声に耳を傾け応えていこう」は、特にウクライナやガザにおける悲惨な状況を意識したものでした。

連日伝えられる悲惨なニュースに心を痛め、いくつかの小教区で「今起きている悲劇から目をそらさず、真実を知りたい」と講演会が行われました。

「歴史や過去は変えることができませんが、今起きている悲劇から真実を知ることが大切」、「無関心ではいけない」、「戦争体験を語れる人が少なくなる。体験者が戦争の悲惨さを若い世代に伝えてほしい」という感想が寄せられていました。

その反対に、若い世代の広島巡礼の報告を聞いて、刺激を受けた「おとな」たちもおられました。

また、戦争体験の「後遺症」ともいえる様々の依存症が、本人のみならず家族をも不幸にしていることを伝えたいと、「依存症の当事者から話を聴く会」を実施した小教区もありました。

人に打ち明けることもできない戦地での過酷な体験が、人格を変えてしまう恐ろしさを感じました。何十年も経った現在の分かち合いでも、「思い出したくない、語りたくない」と口を閉ざす方もおられ、心に受けた大きく深い傷は消えることがないのだと思いました。

そして、「教会が、苦しんでいる人がなんでも打ち明けることができる場所になりたい」と結ばれていました。

《外国人との共生・支援に努力している教会》 小教区の報告から抜粋しました。

- ・日本人・韓国人・ベトナム人の信徒が一緒に歌ったことで、教会が一つになれた。教会全体で神様の平和の道具にならないといけない。
- ・ベトナム人が作った「紙芝居」を日本語とベトナム語で行った。
- ・日本語・英語・スペイン語の各グループのミサがあり、各グループが別々に行事に取り組んできたが、今後は共有できる形を取り入れたい。
- ・今こそ世界平和を！教会に集まる仲間と共に分かち合う平和旬間として、中国語・ベトナム語・日本語・英語でのメッセージで、日本人だけではない声を大切にしながら企画した。
- ・ベトナム人信徒への配慮が足りず、ベトナム語での記載や連携の必要を感じた。
- ・大多数を占めるベトナム系信徒に、平和旬間の意義を十分に伝えていないことに気づいた。
- ・ミャンマーからの難民さん（仮放免中）との関わりは4年目。“顔も知っている私の隣人”として平和旬間行事がお互いを身近な存在として繋ぎ合う場となっている。
- ・ベトナムの方が多いが、ことばの壁があって交わりができないので、ベトナムの事を知る必要を感じてポートピープルの方の話を聴いた。
- ・ベトナムの方が多数おられるので、「平和旬間」とは何かを伝えたいと、ルビをふった文章を早くから配布し、理解していただけるように努めた。
- ・四国の教会では、2年前から「ミャンマー募金」を始めて、ミャンマーのドミニコ会を通じて

ジャングルで避難生活をしている人々やジャングルの中に作った仮設の学校の運営を支援していることを皆さんに報告した。



共同祈願は、日本語、ベトナム語、英語で行った。ベトナムの若者たちが母国語で力強く聖歌を歌う姿に感動した。



徳島教会では、様々な国の青年たちが阿波踊りを体験し、国を超えた交流を深めた。翌日は、ウクライナからの避難民の青年から届いたメッセージを分かち合った。



- ・日本人、ベトナム人、フィリピン人等国际色豊かな共同体で、共同祈願は日本語・ベトナム語・タガログ語で行い、バーベキューで分かち合い。
- ・モザンビークにおける井戸掘削プロジェクトの継続
- ・フィリピンの人たちと心を合わせて、世界平和への祈りをした。

《教会外への働きかけが大切……》

- ・原爆忌に教会の鐘を鳴らすことは、小さな教会にもできること。夏休み中の若者に鐘つきをお願いすることで、原爆忌を伝えている。
- ・映画上映会を外部にも知らせたので、教会外の方も来てくださった。呼びかけることの大切さに気付いた。
- ・信徒が書いた平和祈願メッセージを「ピースツリー」として、正門横のモミの木に展示して、外を通る方にも見ていただけるようにした。

《平和憲法を守る！》

- ・日本国憲法は、アメリカに押し付けられた憲法ではないことを知った。
- ・憲法9条を守るために、私たちに何ができるかを考えなければならない。
- ・今、軍備が必要だという声が高まっているが、もっと外交の力でできることを考えてほしい。
- ・ガンジーの「非暴力は人間に与えられた最大の武器である」、キング牧師の「非暴力は勇気ある人々の生き方である」に励まされた。



それぞれ工夫を凝らした各小教区からのご報告をいただき、ありがとうございました。
今回は特に四国の教会からの報告が楽しみでした。すべての報告が出揃いましたら「報告集」を作成して各小教区にお送りいたしますので、お楽しみに！そして、他の小教区の活動を今後の平和活動への取り組みの参考にしていただけましたら幸いです。また、そのことを通じて新たな交流が生まれることも期待いたします。

「合理的配慮ってなに？」

障がい者委員会 委員長 石井 望

それは、障害を持つ人が、障害を持たない人と同等の機会を得るために事業者が提供しなければならない対策や設備です。

合理的配慮の提供は、今年(2024年)4月1日から、(する、しないは自由の)努力義務ではなく、義務化されました。

最近、「合理的配慮ってなに？」と、聞かれることが多いです。障害を持つ人自身や、かかわる者にとっては馴染みのある言葉です。しかし、“SDGs(エスディージーズ)”「持続可能な開発目標」と同じく、浸透するまでに時間がかかるのでしょうか。

「合理的配慮」の英語は“Reasonable Accommodation”です。納得できるお互いの調整と訳すと分かり易いです。「無理をしなくてよいので、やらなくてもよい」とは、なりません。

内閣府のパンフレットから

- 合理的配慮は、障害のある人にとっての社会的なバリアを除去することが目的ですので、ある



方法について実施することが困難な場合であっても、別の方法で社会的なバリアを取り除くことができるか、実現可能な対応案を障害のある人と事業者等と一緒に考えていくことが重要です。

- このためには、例えば、普段本人が行っている対策や、事業者が今ある設備で活用できそうなものなど、情報を共有し、双方がお互いの状況の理解に努め、柔軟に対応策を検討することが重要です。

- 「合理的配慮」には対話が重要です！

- 本法における「障害者」とは、障害者手帳を持っている人のことではありません。

身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人(発達障害や高次脳機能障害のある人も含まれます)、その他心や体のはたらきに障害(難病等に起因する障害も含まれます)がある人で、障害や社会の中にあるバリアによって、日常生活や社会生活に相当な制限を受けている人全てが対象です。

☆このリーフレットをダウンロードしたい方はこちら

https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai_leaflet-r05.html

内閣府政策統括官(共生・共助担当)付障害者施策担当

◎次号から、用語の詳しい解説や、具体的な事例などをお伝えする予定です。

イエス様の声に従って食事をふるまっているベトナム青年たちのこと

聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会 Sr. マリア・ラン

今年の8月14日、西成区萩之茶屋にある三角公園の夏祭りで、なみはや教会のベトナム人の若者たちがこの公園に来て、困窮している人々を支援するために、ベトナム料理の「揚げ春巻き」と「ゴマ団子」を約300個作って、屋台で販売しました。

その日、日本人もたくさん買いに来てくれました。困窮している人々の支援が目的ですから、この夏祭りでは食べ物を安くして、売り上げの10%は「釜ヶ崎夏祭り実行委員会」に寄付することになっています。

そして、最後はホームレスの人々に分け合うために、約100個のゴマ団子を配りました。

午後9時頃に店での販売を終え、皆さんが協力して掃除をしました。

ベトナムの信者たちは、困っている人々の努力を分かち合うことができたことを皆とても嬉しく思いました。

また8月31日には、生野教会のベトナムの青年たちは「ふるさとの家」で約140人分のお弁当を作り、ホームレスの人々のために配るつもりです。

日本に住んでいる大勢のベトナムの若者たちは、留学生や技能実習生であり、多くの困難に直面していますが、彼らよりも困難な生活をしている人々と分かち合えることは、彼らにとって喜ばしいことです。

イエス様は彼らに食事を与えるように言われていたので、青年たちはその声を聞いて従ったのでした。

なんと美味しそうな「揚げ春巻き」と「ゴマ団子」でしょう！



ブラジル人共同体と関わって

浜寺教会信徒 いそだ いっせい
磯田 一聖

大阪教区の日系ブラジル人司祭アントニオ神父様により、1990年代後半にポルトガル語ミサが浜寺教会で開始されて以来、教区司祭の他に淳心会、ザベリオ会、ボアノヴァ会の神父様によってミサが続けられてきました。



参加される信徒数は、増減を繰り返しながら20～30名ほどで、毎月第2日曜日午前11時よりミサが行われています。

以前には、年数回の日伯合同ミサや中庭での合同運動会、ブラジル人代表者の評議会出席などもありましたが、遠方から来られる方も多く、開始時刻の調整難や言葉の壁などの問題から、むしろ最近ではポルトガル語ミサの典礼準備と参加、ミサ後の持ち寄りミニパーティー、日常生活支援（年金事務所への同行など）や災害支援バザーへの協力依頼、毎年恒例の「フェスタ・ジュニーナ」（6月のお祭り）——ブラジル人参加者が百数十名——の協働開催などを通して、日伯両共同体のインテグレーションを図っています。特にミサ後のミニパーティーは、お互いを知り合うよい機会になっています。



行事に適した教会の広さのせいもありますが、ブラジル人信徒の来訪がずっと維持されているのは、リオ・コルコバードの丘を想起させる鐘楼上のキリスト像が招かれているのだという思いに至ることがあります。

反面、何十年も続いているポルトガル語ミサへの日本人信徒の参加はいまだに少数です。日伯両言語で説教をされる神父様のご配慮に触れるたび、祈りの大半が理解できない不自由さは地上を旅する隣人の思いを知る機会であり、行事などでは多くの日本人信徒の方々が献身的に協力されているだけに、日本人共同体からの一層のミサ参加が望まれます。

神は、「不足がちのところ」をなによりも尊重すべきものとして、体を組み立てられました。それで体に分裂がなくなり、各部分が互いに配慮しあうようになるのです。

こうして、一つの部分が苦しむなら、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分がほまれを受けるなら、すべての部分がともに喜ぶようになるのです。（Iコリント1 2章24～26節）



ブラジル人信徒のふるさと「リオ・コルコバードの丘」のキリスト像

8月0日 ボランティアさんが難民申請者の道を切り拓く

定年退職したアンさんは、時間のある時にシナピスへボランティアに来てくださいます。彼女は英語が得意なので私たちはとても助かっています。

アンさんがボランティアを始めて間もない頃でした。ちょうど英語しか通じない難民申請者1さんを支援していたので、私はアンさんに1さんの対応をお願いしました。アンさんは1さんが癖のない英語を使うのと1さんの人柄そのものを見て、彼女のために英語を武器にした職を探し始めました。私の経験からすると、差別されがちな黒人女性が英語で職を得るのはかなり困難に思われましたので、静かに見守っていました。

ところがなんと！ アンさんは現役時代に培った経験と人脈を生かして見事に英語を使う企業に1さんを就職させたのです。そればかりではなく、有効期間6か月の不安定なビザから、「技術・人文知識・国際業務」（1年）という在留資格への変更まで成し遂げたのでした。安定した地位を得た1さんは、落ち着いて難民申請の準備を進めつつ、既にシェルターを出て一人暮らしを始めています。

ブラボー、アンさん！ 一人の難民女性を救ってくださってありがとうございます。

9月18日 「怒りを抑えられない老害問題」と International Day

International Dayの行事の打ち合わせ日。毎年のことですが、今年も同じメンツが集まると、行事準備そっこのけで話がどんどん横道に逸れていきました。今回は「怒りを抑えられない老害問題」に話が脱線しました。本部総括の伊原さんが、「布施でバイク乗とったら後ろから煽ってくる車あってな、横道に譲ったのに妨害してきよって」と話し始め、伊原さんのあまりの臨場感あふれる語り口に、思わず私たちは身を乗り出して聞き入りました。

「煽り運転した奴が幅寄せして俺のバイクの進行妨げて、車おりてガーガー怒鳴り散らしてきよってな、違反運転してたんは明らかにそいつで、布施駅近くで大勢の人が見てる前やのに何をアホなこと、と思ってたんや。俺が落ち着いてヘルメット外したら、相手がいきなり殴りかかってきたんで、こっちも頭に血が上ってえらいもみ合いになった、その時や。一人のおばちゃんが割って入って、俺よりカラのデカイ相手の男にしがみついたんや。いや、70後半ぐらいの人やった。ほんで言われた。“あんたらそんな喧嘩ばかりしてるから世界に戦争がなくならんねん！”て。

ソン時、俺、血が耳から下へ、サーッと引いた。相手もそう。一気に2人のテンション下がった。世界平和のため、て、おばちゃん身を投げ出して、やで。世界の戦争、全部こっから始まってるやんか、て。

おばちゃんの勇気に感動してな。ただ一つ悔やまれるのは、そのおばちゃんにお礼を言い忘れたことやったな。」

世界の戦争は拳を挙げるところから始まり、言葉を使って丸腰で相手の懐に入る人が戦争を止める。すごい？すごい？ 本日の会議の本題は、そう、Happy International Day!



International Day
での伊原さん

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピスの風

シナピス年間テーマ～「あきらめない 平和への道をと共に」～

第172号 2024年10月1日発行

10月の祈り

慈しみ深い天の父よ、
 あなたがすべての人を
 心にかけておられることを信じています。
 福音書が伝えるイエスの生涯を見ますと
 それがよくわかります。
 イエスが一人ひとりにあなたの愛を感じさせ、
 厳しい状況に置かれていた人々に
 希望をもたらしました。
 私達の周りには苦しんでいる人々がいます。
 また、世界では数えきれない程の人々が
 戦争やあらゆる暴力と不正を受けて
 非常に苦しんでいます。
 天の父よ、
 イエスがなさったように、わたしたちも
 共に生きる世界が可能であると確信して、
 この人々に寄り添い、
 希望をもたらすことができるように
 働きたいのです。
 わたしたちの歩みを支えてください。
 アーメン。



インターナショナル・デー INTERNATIONAL DAY 2024

2024年10月20日 Sun
 11時～国際ミサ
 12時30分～16時 交流会
 St. Mary's Cathedral
 大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂

シナピスニュース 10月号の目次

- ・巻頭言（梅崎隆一神父）
- ・「見よ、それはきわめてよかった」
シンポジウム報告（松尾さん）
- ・平和旬間：徳島教会（山口さん）
- ・障がい者委員会より
（石井神父、玉置さん、梶原さん）
- ・ベトナム青年たち（Sr.マリア・ラン）
- ・浜寺教会のブラジル人共同体（磯田さん）
- ・シナピス事務局こぼれ話（ビスカルドさん）

シナピスニュースをご希望の方は、シナピスにご連絡ください。

シナピス
ホーム



★10月のカフェ
 5日、12日、26日
 13時～16時ごろ

★10月はランチはありません
 INTERNATIONAL DAYで
 お会いしましょう

死刑執行停止を求める諸宗教による 祈りの集い

10月10日（木）18時～20時

各宗派からのメッセージと祈り
八雲琴演奏、仕舞奉納など

*入場無料、どなたでも参加できます
 大本大阪本苑（大阪市西成区聖天下 1-3-14）
 主催：「死刑を止めよう」宗教者ネットワーク

活動へのご支援ご協力を

よろしく願いたします。



電化製品、お米・乾麺・調味料・日持ちのする食料品、外国語の聖書のご寄付をお願いします

*比較的新しい家電製品やミシンなど
 *日本語の聖書は不要です



活動へのご支援ご協力を
よろしく願いいたします。



お庭の草抜きなど「力仕事」を
シナピスにご用命ください！

難民移住者と日本人スタッフとが
一緒に作業にお伺いします

お電話をお待ちしています！！

☎06-6941-4999



シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！

友達追加は 📌 QR コードから 📌



HPはこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

あとがき

厳しい暑さがようやく和らぐなか、今月もシナピス
ニュースを発行できました。原稿の執筆、編集や発行
に携わったスタッフやボランティアの皆さんに、感謝
の気持ちでいっぱいです。

先日、ニュースの編集に関わる人たちが集まって、
シナピスニュースの役割について対話しました。公に
は「教区の社会福音化部門の広報誌」ですが、上意下
達の媒体ではありません。読者とゆるくつながりなが
ら、双方向のコミュニケーションを促す役割を担って
いる様子が、対話を通して明らかになりました。

情報共有というのが大きな役割でしょう。どこでど
んな人たちが、どんな活動をしてどのように感じてい
るのかを知ることで、より深く学んだり、新たな取り
組みにつながったりします。一人で頑張ってる人たち
の間に、つながりが生じることもあるでしょう。

偏見への気づきを促す役割もあるようです。当事者
の状況や思いを伝えることで、自分勝手に物事を判断
していたことに「はっ」と気づき、もうすこし福音的
な視点で見直そうとするきっかけになることもある
ようです。

実際のところ、まだまだそんな役割は十分に担えて
いないかもしれません。可能性のあることを意識しな
がら、今後もニュースをお届けできればと思います。
(いたる)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆ 広報活動

- ・ 教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
- ・ 読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆ 大阪高松教区・社会活動委員会との連携

◆ 学習会研修会の企画

◆ こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆ 日本カトリック司教協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆ 人権教育の講師を務めるなど教育機関への 働きかけ

◆ 難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪高松大司教区事務局内



● 公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

● 車でお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

☐ 郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪高松大司教区

代表役員 前田万葉

☐ 三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958

カトリック大阪高松大司教区 シナピス

代表役員 前田万葉

☐ オンラインはこちら →→→

